

## 学校教育活動アンケートの結果報告

学校教育活動アンケートを令和元年12月に実施しました。回収率は94%で、結果の集計も終わりました。ご協力、ありがとうございました。この結果を精査し、良い点は継続できるように、改善すべき点は方策を考え、より良い教育活動が行えるよう努力していきます。これからも、児童の健全育成に向けて、今まで以上にPTAや地域の方と連携していきたいと思っております。よろしくお願ひします。

### 1 回収率

	集計数	在籍数	回収率	質問項目数
教職員	38	38	100%	37項目
保護者	667	719	92.7%	17項目
児童	674	719	93.7%	11項目
全体	1379	1476	93.4%	

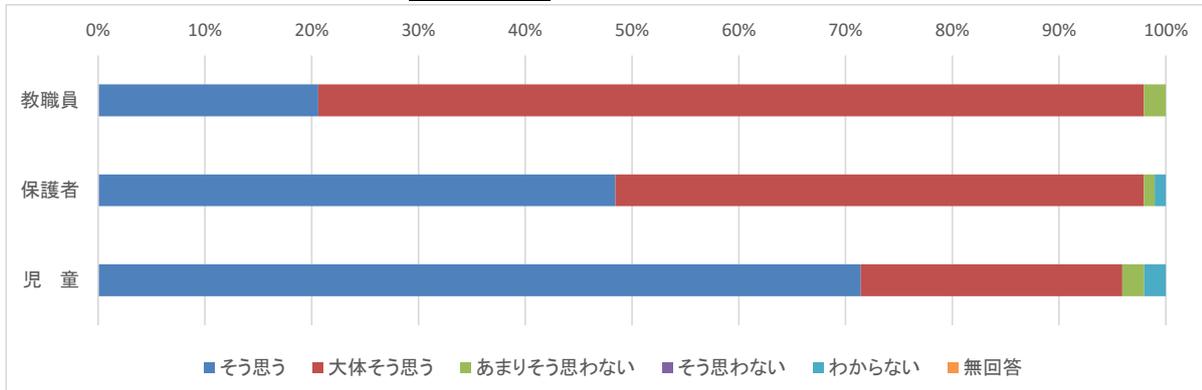
※12月回収日の在籍数  
※複数回答エラー等の数字を除く

### 2 集計結果

- ・1～15番までは、「そう思う」「大体そう思う」の合計を肯定的評価とした。
- ・16・17番は、「そう思う」「大体そう思う」以外の合計を今年度の変更に対しての肯定的評価とした。
- ・1～7番までは教職員・保護者・児童三者の比較、8～13番までは教職員と保護者の比較、14～17番は保護者のみ、18～21番は児童だけの質問項目。
- ・%の合計は、小数点以下の値を表示していないため、必ずしも100%にはならない。
- ・帯グラフの方は、設定の都合上、小数点以下の値を%の値が大きいものに加えて表示している。
- ・回答母体が大きいため、6名以下の回答の場合は0%で表示されている。

#### ①友達と仲良く学校生活を過ごしている。

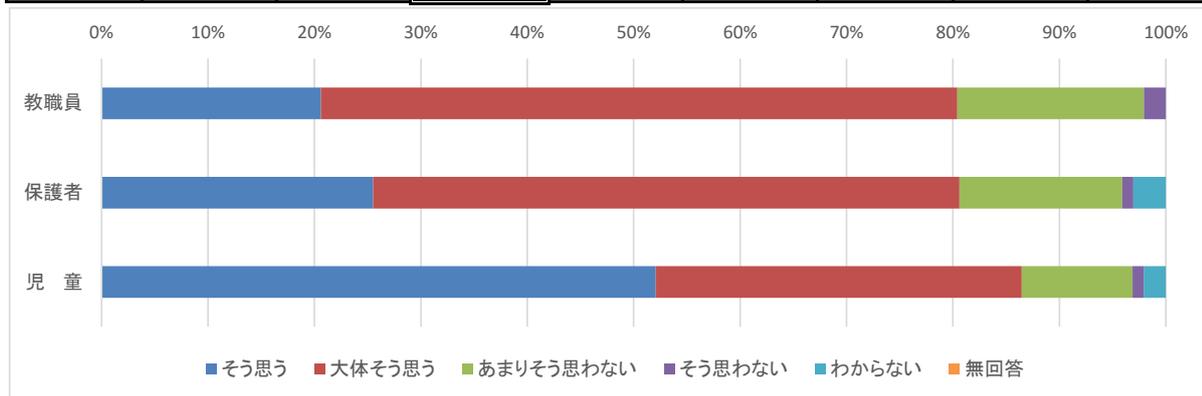
評価者	そう思う	大体そう思う	肯定的評価	あまりそう 思わない	そう思わない	わからない	無回答	計
教職員	20%	75%	95%	2%	0%	0%	0%	97%
保護者	47%	48%	95%	1%	0%	1%	0%	97%
児童	70%	24%	94%	2%	0%	2%	0%	98%



三者ともに94%以上が「友達と仲良く学校生活を過ごしている」と考えている。しかし、「そう思わない」と考える保護者・児童がそれぞれ4名ずついた。パーセンテージ表示にするとその数は現れてこないが、友達と仲良く過ごせていないと考える児童がいるという事実を重く受け止め、いじめアンケート調査などや日頃の観察や個別面談で把握したり、保護者から情報を得たりしながら、一件ずつ丁寧に対応していきたい。また、教育相談活動や道徳教育の充実、日常の中でコミュニケーション能力を高める教育活動を行うことで、円滑な人間関係作りを学ばせていこうと考える。

## ②学校の活動に目標を持ち進んで参加している。

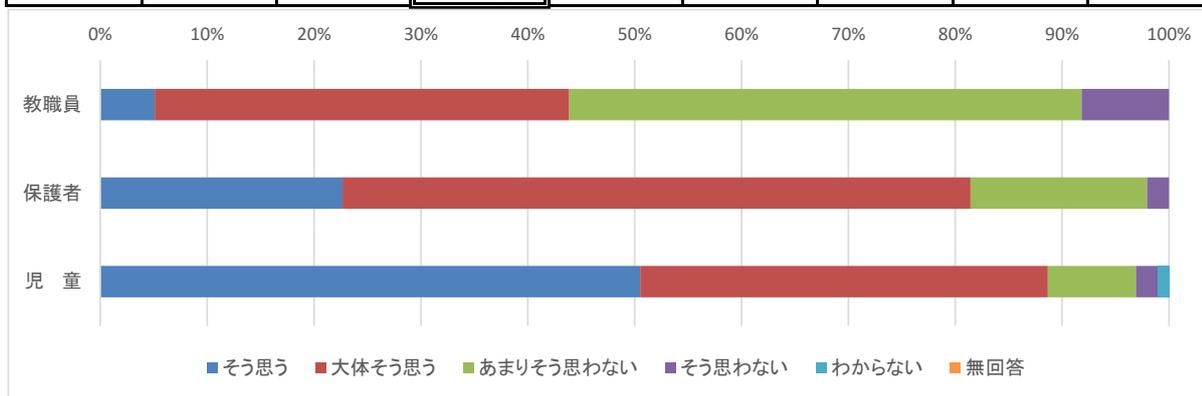
評価者	評価	そう思う	大体そう思う	肯定的評価	あまりそう 思わない	そう思わない	わからない	無回答	計
教職員		20%	58%	78%	17%	2%	0%	0%	97%
保護者		25%	54%	79%	15%	1%	3%	0%	98%
児童		50%	33%	83%	10%	1%	2%	0%	96%



三者ともに8割前後の肯定的回答である。児童が目標を持って様々な活動に取り組んでいることがうかがえる。これからも、学習や行事、委員会活動や部活動など諸活動において、今行っていることが、今後どのような場面で生かされるのか、将来どのような形で役に立つのかを説明し、活動後の変容した児童自身の姿をイメージして目標を持たせ、意欲的に活動させていきたい。同じ取り組みでも、意識一つでその効果は大きく変わるということを、まずは教職員の中で共通理解し、児童に伝えていこうと考える。

## ③挨拶の習慣が身に付いている。

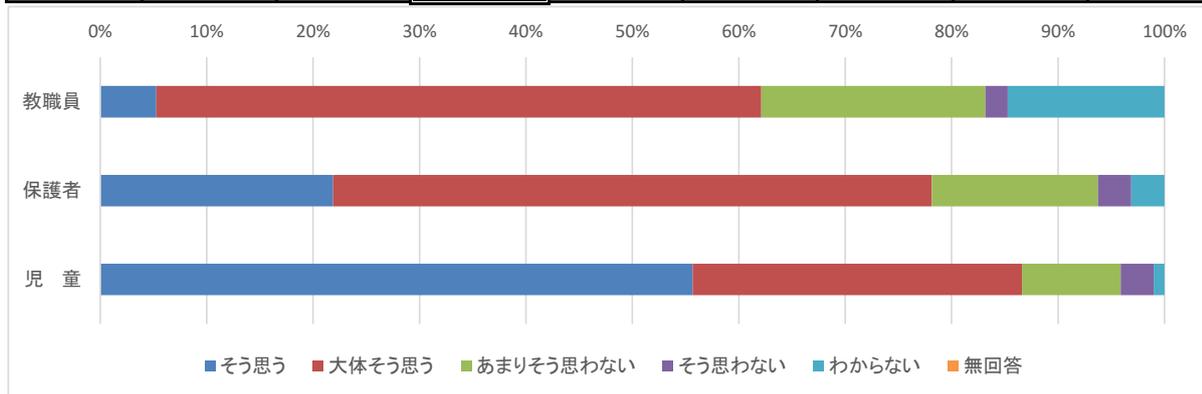
評価者	評価	そう思う	大体そう思う	肯定的評価	あまりそう 思わない	そう思わない	わからない	無回答	計
教職員		5%	38%	43%	47%	8%	0%	0%	98%
保護者		22%	57%	79%	16%	2%	0%	0%	97%
児童		49%	37%	86%	8%	2%	1%	0%	97%



児童、保護者の肯定的回答が高く、教職員の肯定的回答は43%にとどまった。教職員は、自分から進んで笑顔で大きな声で行う挨拶を求めている。できれば、相手の名前を添えたり、一言加えたりという高い目標を持っているため、その分評価も厳しくなってしまうと考えられる。いずれにしても挨拶は、コミュニケーションの大切な入口なので、今後も家庭と協力して指導を行っていきたい。

#### ④授業が楽しくわかりやすいと言っている。

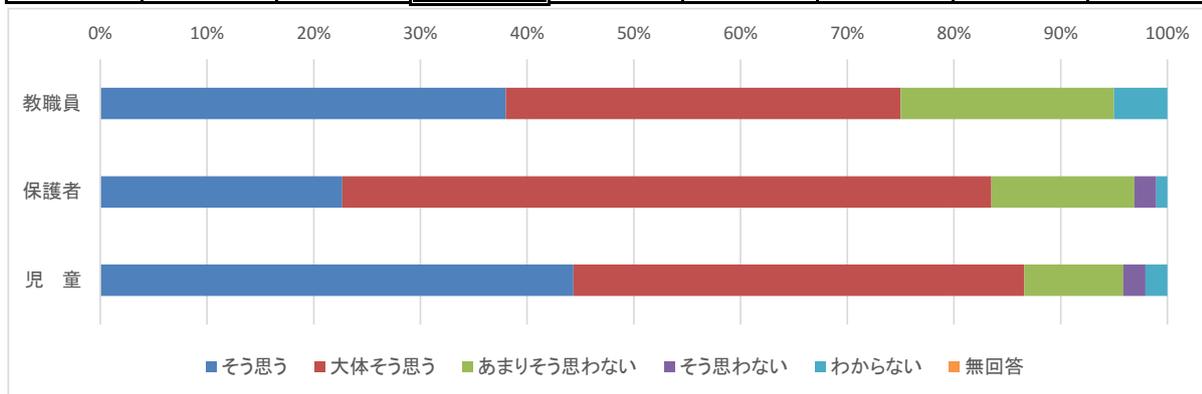
評価者	評		肯定的評価	あまりそう 思わない	そう思わない	わからない	無回答	計
	そう思う	大体そう思う						
教職員	5%	54%	59%	20%	2%	14%	0%	95%
保護者	21%	54%	75%	15%	3%	3%	0%	96%
児童	54%	30%	84%	9%	3%	1%	0%	97%



「授業が楽しくわかりやすい」と答えた児童が84%であった。教職員には、励みになる数値である。しかし、保護者の約1/4が否定的な回答であることと、教職員自身の数値が60%に満たなかったことは、さらなる授業改善が必要であると感ずる。新学習指導要領では、「何を学ぶか」だけでなく「どのように学ぶか」や、「何を知っているか」にとどまらず「何ができるようになるか」が求められている。したがって、「知識の習得だけでなく、知識を活用する力」を身につけるための学習課題や学習形態の工夫について、引き続き研究・研修していかなければならない。児童の数値に励まされながらも、絶えず修養に努めていきたい。

#### ⑤学習したことが身に付いている。

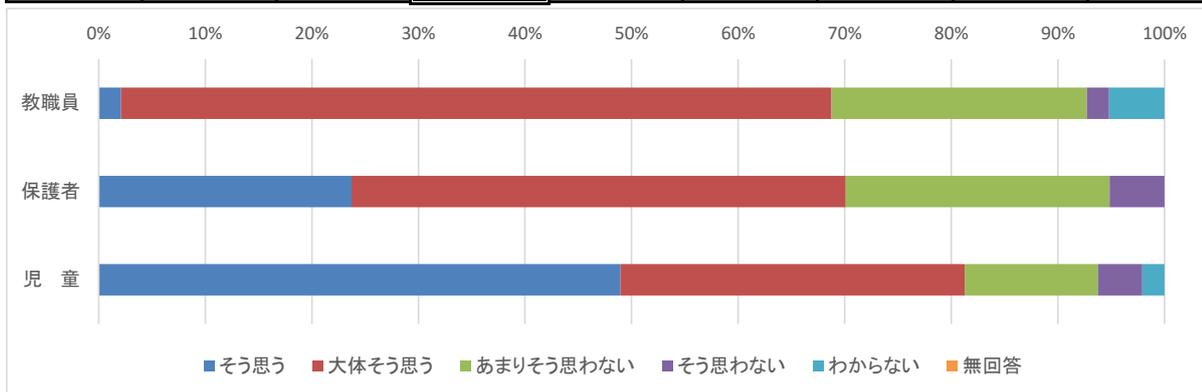
評価者	評		肯定的評価	あまりそう 思わない	そう思わない	わからない	無回答	計
	そう思う	大体そう思う						
教職員	38%	37%	75%	20%	0%	5%	0%	100%
保護者	22%	59%	81%	13%	2%	1%	0%	97%
児童	43%	41%	84%	9%	2%	2%	0%	97%



保護者・児童の肯定的回答の数値が8割を超えている。実際、標準学力テストの正答率を昨年度と比較すると、各学年とも向上が見られた。つまづきをそのままにせず、テスト直しや既習事項を再度ノートなどで振り返らせるような取り組みが、結果につながったと考える。継続していきたい。また、学校で学習したことを、少し時間をおいて家庭で復習することによって学習内容が定着する。ご家庭での頑張りが結果に現れたと思う。秋田県や石川県など、全国学力・学習状況調査（小6・中2で実施）での正答率の高いと言われている県は、家庭学習が習慣化されていると言われている。記憶は、消える前に繰り返すことで定着する。学校と家庭と2回行うことで、学力は身につけていく。家庭と連携して学力の向上を図りたい。

### ⑥家庭学習の習慣が身に付いている。

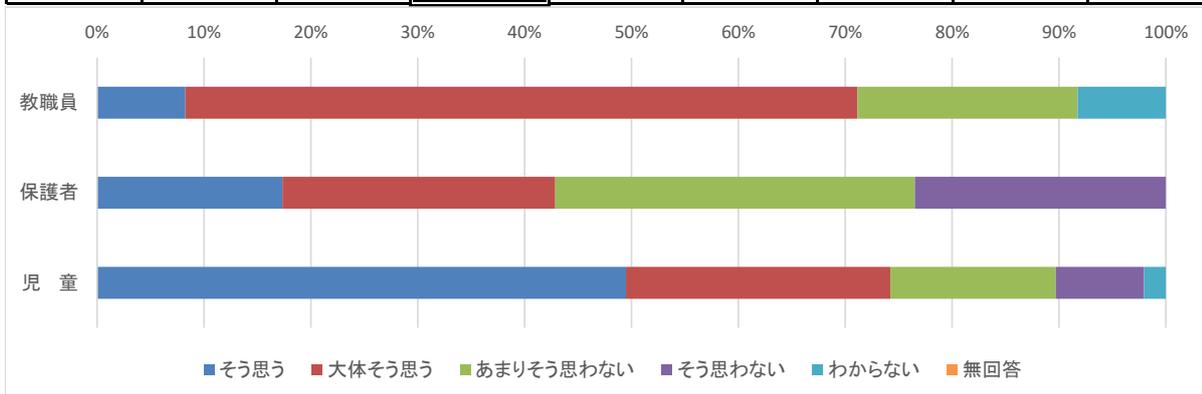
評価者	評価	肯定的評価	計
	そう思う	大体そう思う	肯定的評価
教職員	2%	64%	66%
保護者	23%	45%	68%
児童	47%	31%	78%
	あまりそう 思わない	そう 思わない	わからない
	23%	2%	5%
	12%	4%	2%
	0%	0%	0%
	96%	97%	96%



全体の質問項目の中でも、肯定的回答が2番目に低かった。児童の肯定的回答は78%ではあるが、保護者、教職員は70%に満たなかった。これは、例年の傾向と同じである。児童にとっては、宿題を終わらせれば、家庭学習は終わりと考えているようだが、保護者、教職員は、もっと自主的な家庭学習の姿を期待している。保護者、教職員の期待の高さの裏返しではないかと感じる。同じクラスでも、宿題が多いと感じる保護者と、少ないと感じる保護者という。個の力の差や習い事などそれぞれ事情があり、感じ方も異なる。必要最小限の宿題と、空いた時間を習得状況や興味に応じて、自分なりの課題に取り組む姿勢を育てていきたい。

### ⑦読書をよくする。

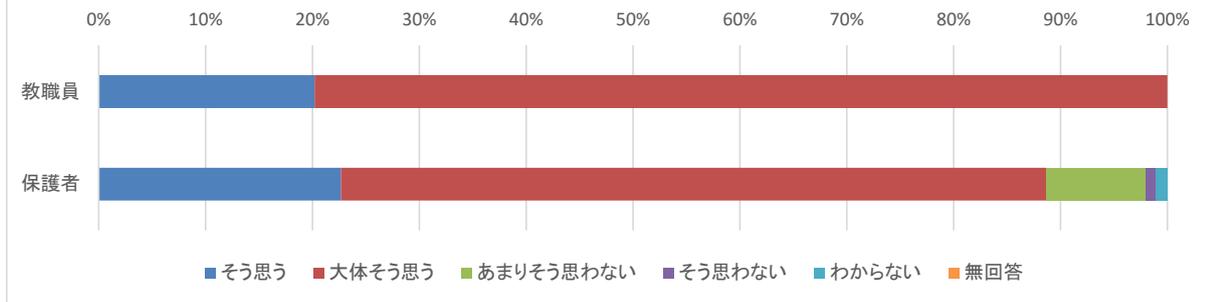
評価者	評価	肯定的評価	計
	そう思う	大体そう思う	肯定的評価
教職員	8%	61%	69%
保護者	17%	25%	42%
児童	48%	24%	72%
	あまりそう 思わない	そう 思わない	わからない
	20%	0%	8%
	33%	23%	0%
	15%	8%	2%
	0%	0%	0%
	97%	98%	97%



毎年、全体の質問の中で肯定的回答が一番低い設問である。学校でも、毎週月曜日と水曜日に朝読書の時間を設けている。この時間だけ読書すれば良いというものではなく、読書の楽しさを知り、家庭でも読書に親しめればよいと考えて行っている。児童は、読書に時間も含め70%以上が肯定的にとらえているが、家庭で読書する姿が見られなければ、保護者の肯定的回答は当然低いままであると考える。学級役員による図書館からの学級文庫の借り入れや、今年度から行っている移動図書館そよかぜ号の三小への乗り入れなどを通じて、たくさんの本と触れ合うことで、今後も読書の楽しさを伝えていきたい。

⑧学校行事等は、保護者が参観しやすいように工夫されている。

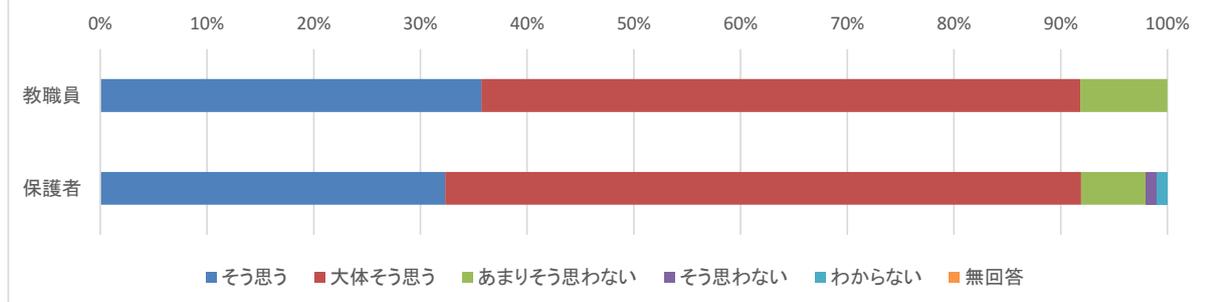
評価者	そう思う	大体そう思う	肯定的評価	あまりそう 思わない	そう思わない	わからない	無回答	計
教職員	20%	79%	99%	0%	0%	0%	0%	99%
保護者	22%	64%	86%	9%	1%	1%	0%	97%



保護者の肯定的回答が86%の高い数値であった。児童の日頃の活動の成果を発表する場として、これからも参観しやすいように工夫していきたいと考える。教職員の数値が99%（実質100%）であるのは、行事ごとに教職員でアイデアを出し合い、参観しやすいように時間をかけて話し合い、改善している結果であると感じる。しかしながら、規模の大きい学校であるため、校庭で行う行事も体育館で行う行事も、常に混雑し不自由をおかけしている。行事後の感想箋を参考にしながら、今後も改善に努めていくので、何か良いアイデアがあれば教えていただきたい。

⑨教育活動の内容は、学年便りや学校便り、ホームページ等によって知ることができる。

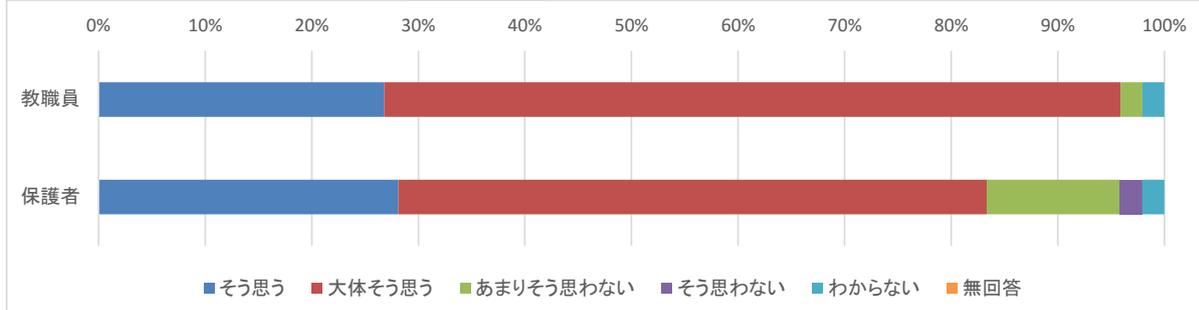
評価者	そう思う	大体そう思う	肯定的評価	あまりそう 思わない	そう思わない	わからない	無回答	計
教職員	35%	55%	90%	8%	0%	0%	0%	98%
保護者	32%	59%	91%	6%	1%	1%	0%	99%



保護者、教職員ともに、肯定的回答が9割を超える高い数値であった。特に、保護者のアンケートの意見・感想欄に、「ホームページが毎日更新されていて、学校の様子がよく伝わってくる」という言葉を複数いただいた。これを励みに、これからも学校の様子を伝えていきたい。ぜひ、多くの方にホームページをご覧いただきたい。

### ⑩お子さんの学習や生活について、相談できる。

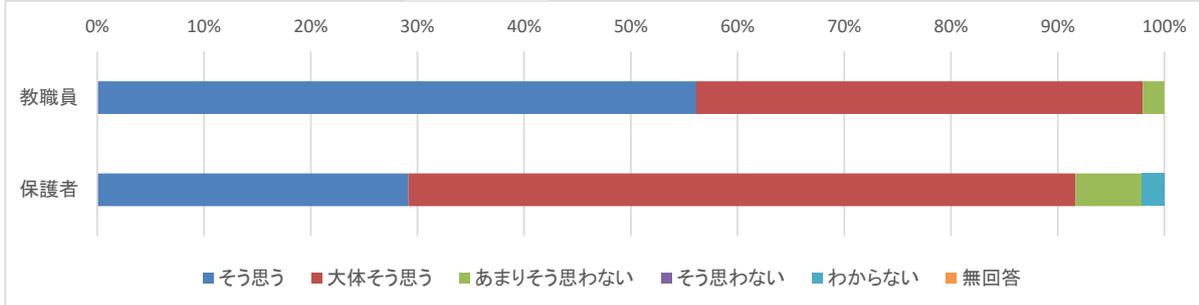
評価者	そう思う	大体そう思う	肯定的評価	あまりそう 思わない	そう思わない	わからない	無回答	計
教職員	26%	67%	93%	2%	0%	2%	0%	97%
保護者	27%	53%	80%	12%	2%	2%	0%	96%



保護者、教職員ともに、肯定的回答が8割を超える数値であった。しかし、保護者の数値は昨年より4%下がった。今年度は、家庭訪問が1年生が希望制で、他の学年は実施しなかった。また、4/17の第1回学級懇談会は、インフルエンザによる学級・学年閉鎖で、2-1, 3学年, 6学年が実施できず、さらに振り替えた5/9が、不審者騒動で急遽引き渡しになったため、この日もまた実施できなかった。結局、夏休みに入行われた個人面談で、ようやく担任と保護者がゆっくり顔を合わせて話をすることができた。アクシデント続きとはいえ、「どんな担任なのか」わからないまま1学期を終えてしまったことは、保護者にはご心配をおかけしてしまった。ただ、日常的に連絡帳や電話などで連絡を密に取れていたことが、数値に反映したと考える。今後も、何か相談事があれば、心の教室相談員やスクールカウンセラーを含め、相談しやすい雰囲気づくりと対応を心掛けていきたい。

### ⑪学校は、安全や防災対策について、積極的に取り組んでいる。

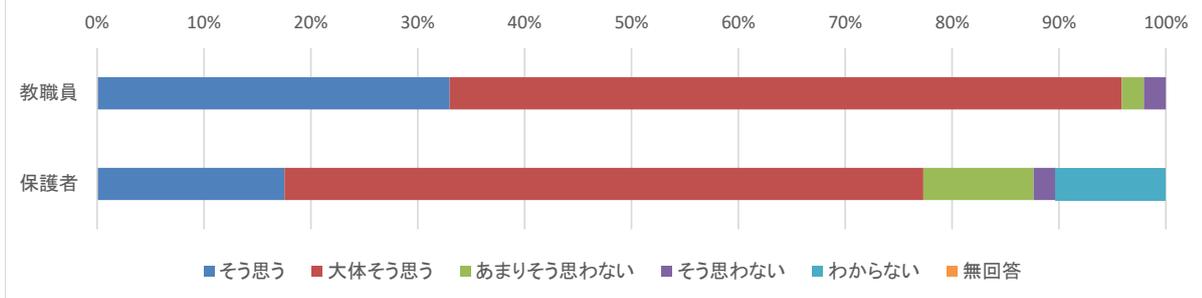
評価者	そう思う	大体そう思う	肯定的評価	あまりそう 思わない	そう思わない	わからない	無回答	計
教職員	55%	41%	96%	2%	0%	0%	0%	98%
保護者	28%	60%	88%	6%	0%	2%	0%	96%



今年度は、学校安全教育の指定を受け、特に通学路の安全を中心に、各学年で安全教育の授業展開を行い、安全教育講演会や4校合同教育ミニ集会でも話題の中心とした。常日頃から「自分の命は自分で守る」を合言葉に、信号が青でも「左右の確認をする」習慣づけを行った。また、防災時の非常食を学校に常備した。しかし、安全については「これで大丈夫」ということはないので、引き続き安全教育や防災対策を行っていかうと考える。また、安全や防災・防犯については、学校だけでは限界があり、保護者・ボランティア・地域の方との連携・協力が必要不可欠であるため、これからも連携を強化していきたいと考える。特に、1年通して行われている登下校時の見守りや交通安全パトロールのボランティアの方々には、本当に頭の下がる思いである。

⑫学校は、いじめのない楽しい学校(学級)づくりにつとめている。

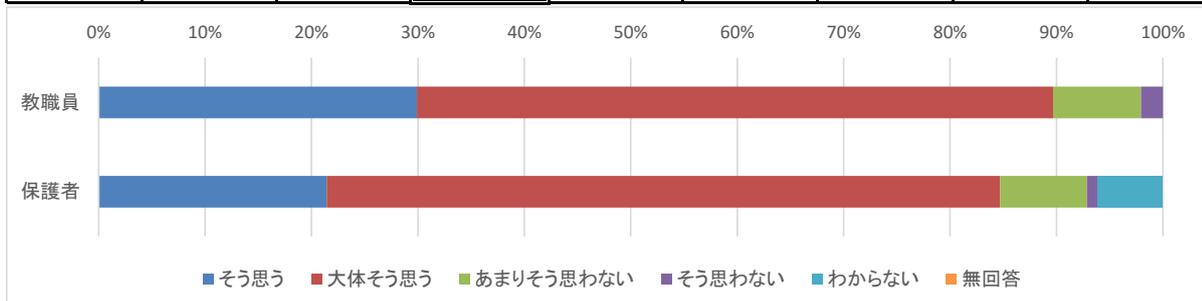
評価者	そう思う	大体そう思う	肯定的評価	あまりそう 思わない	そう思わない	わからない	無回答	計
教職員	32%	61%	93%	2%	2%	0%	0%	97%
保護者	17%	58%	75%	10%	2%	10%	0%	97%



1・2学期のいじめアンケート、3学期(2月に実施予定)のなかよしアンケート(本校独自)、12月の学校生活アンケート(本アンケート)、およびセクハラ・体罰アンケートを年間計画に基づいて行っている。特に、毎学期行ういじめ(なかよし)アンケートの後には、短い時間ではあるが、全児童対象に個別面談を行い、アンケートに書けなかったことを対面で確認している。また、年2回(1年生は1回)QI検査(学級満足度・学校生活意欲アンケート調査)を行い、学級の中での児童の集団との関わり状況を調べている。これを元に、教育委員会が来校して追跡調査を行っている。それでも見えてこないいじめを見つけようと、毎日の観察を行っている。時には、登下校の様子を見ている地域の方から教えられることもある。また、この学校教育アンケートの保護者からの意見・感想欄にもいくつか上がってきている。把握したものは、すぐに対応するように努めている。「いじめは、いじめる側に課題がある」という認識で、道徳教育の充実とともに、全教科・全領域で心の教育を進めているところである。

⑬学校は、子どもたちをよりよく育てるため、地域の人たちと協力している。

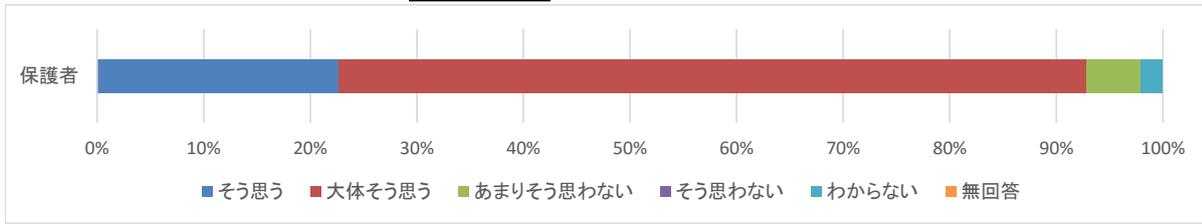
評価者	そう思う	大体そう思う	肯定的評価	あまりそう 思わない	そう思わない	わからない	無回答	計
教職員	29%	58%	87%	8%	2%	0%	0%	97%
保護者	21%	62%	83%	8%	1%	6%	0%	98%



本校は、非常に地域や学校支援ボランティアの協力が得られていると感謝している。特に、最近では1月に行われた学校・PTA共催行事の「あわんとり」では、地域・PTAの協力なしには実施できない行事であった。竹や茅取り、小屋の組み立て、正月飾りの回収、お餅作りなどの準備では地域・PTAの力を借り、小屋の点火から燃やし終えた小屋の片付けまでは地域消防団にお世話になり、学校・PTAと地域が一体となった本校ならではの伝統行事であった。また、年間通して行われている「ひょうたから本」の読み聞かせや、学校支援コーディネーターを中心とした学習支援、環境整備などのボランティア活動には、たいへん助けられている。今まで参加していなかった方も、単に児童や学校のためと考えるのではなく、ご自身の地域との関わりを深め、地域に貢献し自己肯定感を高め、自己実現するためにも、ぜひ積極的に参加していただきたいと考えている。

⑭学校は、子どもたちにとって生活しやすい環境が整っている。

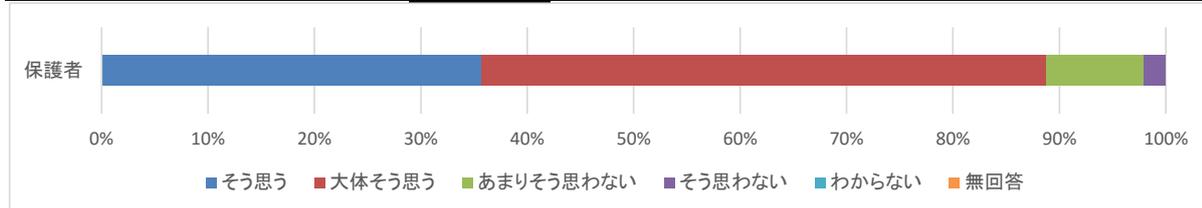
評価者	評							計
	そう思う	大体そう思う	肯定的評価	あまりそう 思わない	そう思わない	わからない	無回答	
保護者	22%	68%	90%	5%	0%	2%	0%	97%



90%の高い肯定的回答が得られた。しかし、学校のいたるところに危険が隠れていることを改めて認識したい。これからも、児童にとって、安全で安心して楽しく学習や運動や生活が行える環境に整えていきたい。そのためには、施設・設備・自然などのハード面だけでなく、教職員のまなざし・声かけ・心くばりなどのソフト面が、児童にとって大きな教育環境であることを教職員に伝えていこうと考える。

⑮保護者は、授業参観や懇談会に進んで参加している。

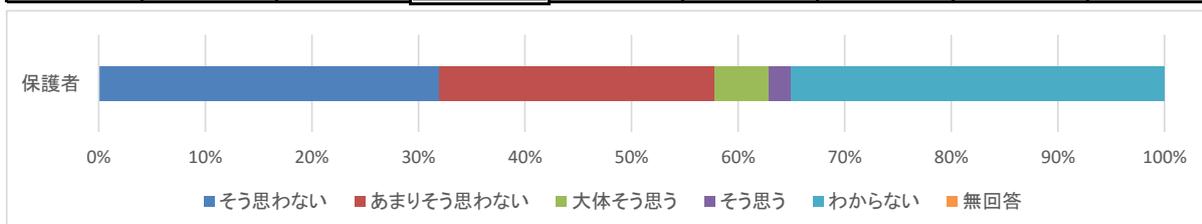
評価者	評							計
	そう思う	大体そう思う	肯定的評価	あまりそう 思わない	そう思わない	わからない	無回答	
保護者	35%	52%	87%	9%	2%	0%	0%	98%



保護者自身の回答である。実際、行事や授業参観や懇談会への出席は多いと感じる。しかし、もっと多くの保護者に学校に来ていただきたい。そうすることで、私たち教職員自身では気づけない部分を指摘していただいたり、児童の人間関係のひずみ（いじめ）を教えていただいたりすることで、より一層、高い水準の学校教育が実現されることにつながると考える。

⑯学校への自動音声電話対応の導入によって、夜間休日の緊急時連絡が市役所への電話連絡となりましたが、それによって不都合が生じましたか。

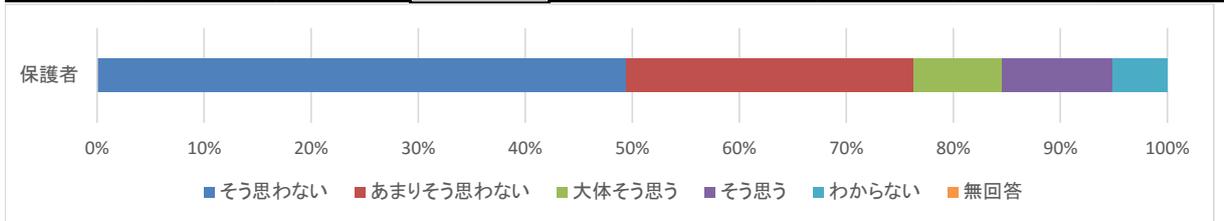
評価者	評							計
	そう思わない	あまりそう 思わない	導入に対して 肯定的評価	大体そう思う	そう思う	わからない	無回答	
保護者	31%	25%	56%	5%	2%	34%	0%	97%



現在、夕方17：30から朝7：25までが、自動音声電話対応になっている。しかし、その時間に学校に電話を掛けたことのない方が多く、設問の中で唯一、「わからない」が一番多い回答となった。過半数の保護者が肯定的回答をしているが、保護者の意見・感想欄には、「夕方学校からの着信があり、折り返し電話したが自動音声電話対応で通じず、結局、翌日まで電話の内容がわからなかった。」という声があった。今は、浮かばないが、何らかの対処をしたいと考えている。

⑰今年度、家庭訪問の形態を変更しました(1学年のみ希望者、他の学年は住居確認)が、家庭訪問は全家庭実施した方がよいと思いますか。

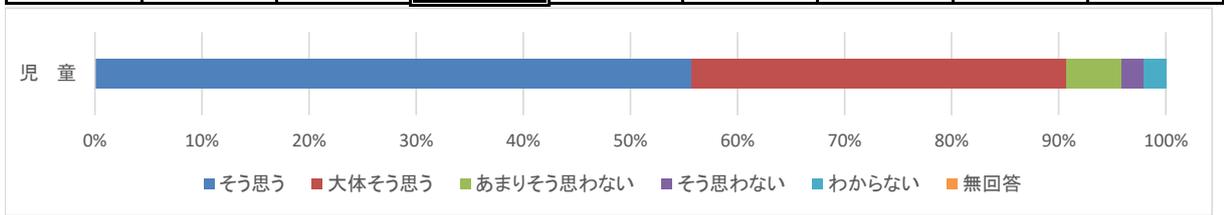
評価者	評		変更に対して肯定的評価	大体そう思う	そう思う	わからない	無回答	計
	そう思わない	あまりそう思わない						
保護者	48%	26%	74%	8%	10%	5%	0%	97%



74%の肯定的回答があった。つまり、約3/4の保護者が、家庭訪問は実施しなくてもよいと考えている。しかし、保護者の意見・感想欄では、「児童の家庭環境を把握するためや、担任のことを知るために実施した方がよい」という声も寄せられた。また、「保護者が希望する家庭や、担任が必要と考える家庭への訪問を実施する」「新年度の早い時期に学校での個人面談を実施する」との意見もあった。教育相談という形で期間を設け、「希望者・必要に応じて」をキーワードに検討していきたい。

⑱まじめに掃除をしている。

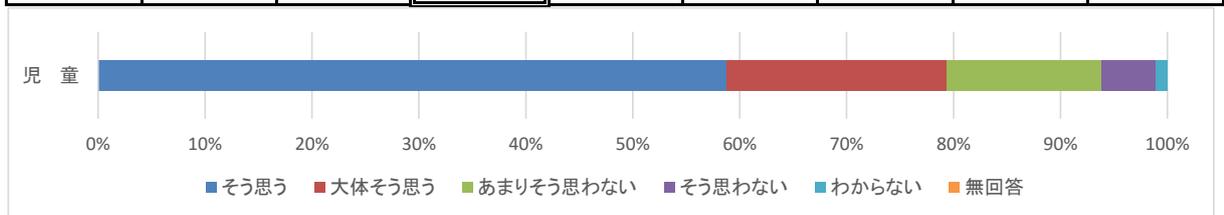
評価者	評		肯定的評価	あまりそう思わない	そう思わない	わからない	無回答	計
	そう思う	大体そう思う						
児童	54%	34%	88%	5%	2%	2%	0%	97%



掃除への取り組みには個人差があるが、概ね真面目に行っていると感じる。特に、水の冷たい冬の時期に、固くしぼった雑巾で廊下を一生懸命拭いている大勢の児童には、「頑張っているね。ご苦労様」と声をかけずにはられない。それぞれの分担場所で、大部分の児童がしっかりと掃除をしているが、人任せにしている約1割ぐらいの児童には、協働の意義・物の大切さ・感謝の心など、掃除を通して学ぶべきことが多いので、引き続き指導していきたい。海外でも、日本をまねて学校教育に掃除の時間を取り入れる国や地域が現れたと聞いている。日本独特の伝統的な教育活動の一つとして、継承していきたい。

⑲進んで運動している。

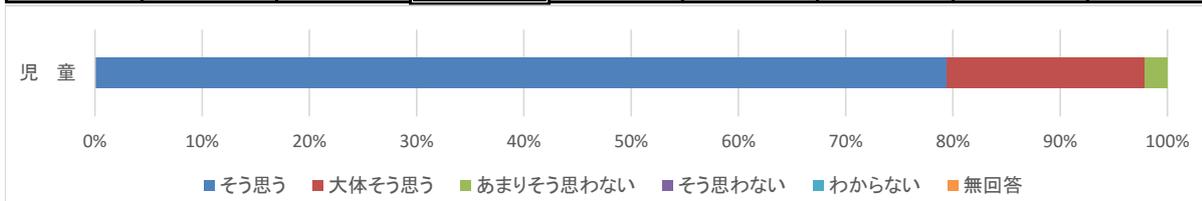
評価者	評		肯定的評価	あまりそう思わない	そう思わない	わからない	無回答	計
	そう思う	大体そう思う						
児童	57%	20%	77%	14%	5%	1%	0%	97%



多くの児童が、冬でも元気よく校庭で遊んだり運動したりしている。しかし、運動が苦手だったり体を動かすことが嫌いだったりして、業間休みも昼休みも教室に残っている児童も存在する。小中高校生の若い時期に体を鍛えることは、その後の健康寿命に影響してくる。子どもや若年層の肥満や糖尿病が問題になっている。また、無理な食事ダイエットも健康には良くない。やはり、成長期は、しっかり食べて、しっかり体を動かすことが大事だと考え、児童にも伝えていきたい。

⑳地震や火事の時、どうすればよいかわかる。

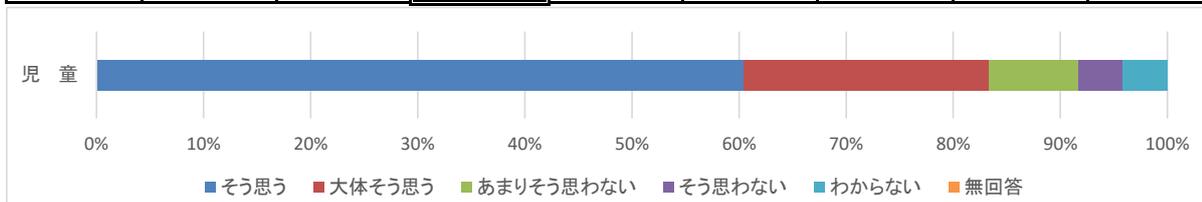
評価者	評価	そう思う	大体そう思う	肯定的評価	あまりそう 思わない	そう思わない	わからない	無回答	計
児童		77%	18%	95%	2%	0%	0%	0%	97%



年3回の避難訓練、随時行われる第1次避難までのワンポイント訓練、実際の地震にで行う第1次避難を合わせると、月一回ぐらいの割合で行っている。また、学級や授業の中、全校朝会などで地震や火災の時の行動を伝えている。そのため、95%の肯定的回答が得られた。今後も、指導・訓練を行っていきたい。

㉑困った時、相談できる人がいる。

評価者	評価	そう思う	大体そう思う	肯定的評価	あまりそう 思わない	そう思わない	わからない	無回答	計
児童		58%	22%	80%	8%	4%	4%	0%	96%



8割の児童が、困った時の相談相手がいると答えた。それが、保護者でも、教職員でも、相談員でも、友達でも、誰でもよい。一人で悩まないでほしい。2割の児童が、「わからない」を含めた否定的回答であった。2割、つまり五人に一人が、困った時の相談相手がない、浮かばない状態である。これは、非常に多い数字だと考える。教職員も、担任だけでなく、校長はじめ、教頭、教務、養護教諭、学年の教員、心の教室相談員といるので、誰に相談してもよいということをもっと伝えなければならないと考える。また、学校外の電話相談などの番号を、学校便りや長期休業のしおりなどに掲載しているので、配付する時に一言添えて周知するようにしたい。